

# どう描く経済再建

東北 リーダーに聞く

―東日本大震災から3年が過ぎた。

## 震災で意識変化

「国の判断に基づき、仮埋葬された石巻市内の700体の遺体を2011年5月から3カ月半かけて掘り起こし、荼毘(だび)に付した。大変な作業だったが、尊厳を守って送れたと思う」  
―葬送が多様化している。

「首都圏を中心に葬儀不要論もあったが、震災後、弔いの重要性が高まったと感じる。最近増えている小規模の葬儀や家族葬こそが葬式の原点。形式的ではなく、心を込めて故人をしのぶス

清月記 菅原 裕典社長



すがわら・ひろのり 東北学院大卒。85年すがわら葬儀社を父と創業し、01年から社長。10年に社名を清月記に変更。宮城県葬祭業協同組合副理事長なども務める。53歳。仙台市出身。

# 葬儀の多様化に対応

## 業務提携も視野

は役所にいない。業界全体でメリットを感じられる運営を心掛ける」

「一乃庵・は11年2月、自前の質の高い食事でもてなす狙いで始めた。震災翌日から社員食堂の役割も果たした」

「中・大規模ではなく、家族葬向けホールを地域に増やしたい。病院で言えば町医者のような存在を目指す。同業者にも貸し出すつもりだ」

「LCでは葬儀やお墓を含め、自分の死を人生の一部として明るく考えてもらうべきだ」

「国内の死亡者数は40年代まで増加が予想される。震災を機に廃業や規模縮小を検討する同業者もあり、われわれのグループとの業務提携を提案したい。将来的には株式公開もあり得る。上場できる企業へと体質強化を図る」

「LCでは葬儀やお墓を含め、自分の死を人生の一部として明るく考えてもらうべきだ」

「LCでは葬儀やお墓を含め、自分の死を人生の一部として明るく考えてもらうべきだ」

「LCでは葬儀やお墓を含め、自分の死を人生の一部として明るく考えてもらうべきだ」

「LCでは葬儀やお墓を含め、自分の死を人生の一部として明るく考えてもらうべきだ」

「LCでは葬儀やお墓を含め、自分の死を人生の一部として明るく考えてもらうべきだ」

「LCでは葬儀やお墓を含め、自分の死を人生の一部として明るく考えてもらうべきだ」

「LCでは葬儀やお墓を含め、自分の死を人生の一部として明るく考えてもらうべきだ」

◇

(聞き手は瀬川元章)

「どう描く経済再建」は

随時掲載します。